中高校生による東日本大震災

被災地ボランティア報告

（WAKUWAKU西郷　東日本復興支援プロジェクト）

日　時　　平成24年11月24日（土）14時～
会　場　　西郷みらい館

主　催　　NPO法人 WAKUWAKU西郷
協　賛　　西郷地区社会福祉協議会
後　援　　掛川市、掛川市社会福祉協議会、東日本大震災掛川市民の会
静岡県地球温暖化防止活動推進センター

目　的　　高校生が被災地を実際に見て、聞いて、感じたことを後世 に引き継ぎ、その教訓を自主防災や地域防災に生かしていく。
これから自分たちに何ができるのか、何をやるべきかを考える。

日　程　　平成24年8月21日～23日　　3日間

場　所　　陸前高田市

参加者　　中学生4人、高校生17人、大人15人、合計36人

行　程　　21日　20時　　掛川市役所を出発
22日　午前　　陸前高田市で、水田水路の泥出し作業
午後　　語り部さんによる被災した市内の視察研修
宿泊　　一関市　渓泉閣旅館
23日　　歴史学習　世界文化遺産　平泉の中尊寺を拝観

参加した中高生の思い

1　どんな気持ちでこの活動に参加しましたか？

現地の人の役に立ちたい。
岳洋中3年　縣　航

自分の世界を広げられたらと思った。
藤枝明誠3年　中山賀智

人の役に立ちたい。
横須賀高3年　平岩優大

地震が起きてから今までずっと、何かをしてあげられないかと考えていて、でもなかなか行動できませんでした。自分を変えられたらと思って参加しました。　常葉菊川高3年　金子奈央

2　ボランティア活動をして何を思いましたか？感じましたか？

たくさんの人が助け合って作業をしていました。
たった数時間でした協力をする大切さを知りました。
常葉菊川高3年　芝田祐輔

お互い協力することが大切だと思いました。
常葉菊川高1年　山本春香

とても辛い思いをされた方がたくさんいて、少しでもその気持ちを和らげたいと思った。
遠江高3年　柴田基博

約1年半たってもまだ手に付けられていないところがあるとはびっくりしました。
作業中コップやお皿がでてきて津波のすごさがわかった。
常葉菊川高1年　松浦莉子

３　被災地を実際に見てどう思いましたか？

私の街もこうなるのかなと思った。　　常葉菊川高１年　田中月乃

とても驚いた。でも同じように淋しい気もするが感動があった。
特に一本松は海にとっても近くまわりの松はすべて流されたのに、
その松だけスラッと立っている姿に、とても感激を受けた。
豊田中１年　吉田宙渡

とてもぐちゃぐちゃになっていて、「このがれきはどうするのか？」と思うほどに、
がれきの山がたくさんありました。
建物の窓ガラスも津波のすごさを感じました。　　大浜中１年　山崎水有希

壁に書かれた赤い×印。ここで何にもの命が犠牲になった。
テレビや新聞で見るより、自分の目で見て感じることの大切さがわかりました。
常葉菊川高3年　荒浪　唯

４　一番心に残ったことはどんなことですか？

語り部さんの話の中で「ところどころに花があり、これは家族が
亡くなって手向けてある」と聞いて本当につらいと思った。
常葉菊川高１年　近藤美月

住宅がたくさん並んでいたところが、がれきの山になっていたり、
中学のグランドにあるがれきを手作業で分別していたところ。
常葉菊川中１年　佐藤　匠

語り部さんがしゃべっているときの目がとても悲しい目をし
ていたのが、今でも心に残っています。
常葉菊川高3年　大平　熙

中学校の校長先生が迅速な対応で、
生徒を避難させたと聞いたことです。
浜松学芸高１年　石田　隼

５　これから自分や地域は何をしたらいいと思いますか？

いざというときに備えて、前もって準備をしておく。近くの人との協力や助け合い。
今回学んだことを周囲の人に教える。　　遠江高3年　河内翔太

今回できた経験を忘れないで生活をする。
常葉菊川高3年　匂坂秀樹

なんでもいいから少しでも力になりたいと思う。
常葉菊川3年　山下圭介

避難経路や避難場所など基本的なことをしっかり確認していきたいです。
浜松海の星高１年　小杉美奈

東海地震がもし来たら、自分たちが声をかけてちゃんとした判断、行動をして
少しでも犠牲者を減らしたい。　　常葉菊川高3年　松浦薫平

６　その他感じたこと

今回の体験で自分の命は自分で守る！ということを改めて知った。
家族とも集合場所を決め自分で行動をとり、自分の命は自分で守りたい。
豊田中1年　吉田宙渡

災害が起きた際には、
団体でいたならば「リーダーの迅速な判断」。個人でいたならば「自分の命は自分で守る」
というコトが重要だと強く感じました。　浜松学芸高1年　石田　隼

このボランティアでわかったこと。
津波の威力、すべてを失った恐怖、そして、人々が復興というもとに生み出されたきずなと協力。
私はこれらを体験していませんが、これから人の役に立てるようになりたいです。
大浜中　山崎水有希

参加証明書

○○高等学校　○年生　○○○○　様

あなたは、NPO法人 WAKUWAKU西郷が実施した「高校生による東日本大震災 被災地ボランティア」に参加し、岩手県陸前高田市において、環境保全と被災地復興のボランティア活動に参加したことを証明します。

場　所　岩手県陸前高田市
日　時　平成24年8月21日(火)～8月23日(木)
内　容　がれき撤去や海岸清掃等

平成24年8月23日

NPO法人 WAKUWAKU西郷　理事長　松浦昌巳

WAKUWAKU西郷として、被災地を体験して

- 行政、自主防災のマニュアル見直しの必要性
- 避難地での判断力。
- 学校と地域とのつながりの重要性。
- 自分の命を、まず守る。
- 支援活動の継続性。（物的、心的）
- ボランティアを受け入れる体制づくり。

「WAKUWAKU西郷」では、引き続き陸前高田市「ゆめプロジェクト」に協力していきます。
バーコードが付いた古本を、全体回収の日に集めますので、皆様のご協力をお願いします。

今回の被災地でのボランティア活動は、貴重な体験として参加した子どもたちには、大変良い経験となったと思います。
参加させていただいた保護者の方や協力いただいた関係者の方には、厚くお礼申し上げます。
WAKUWAKU西郷　理事長　松浦昌巳